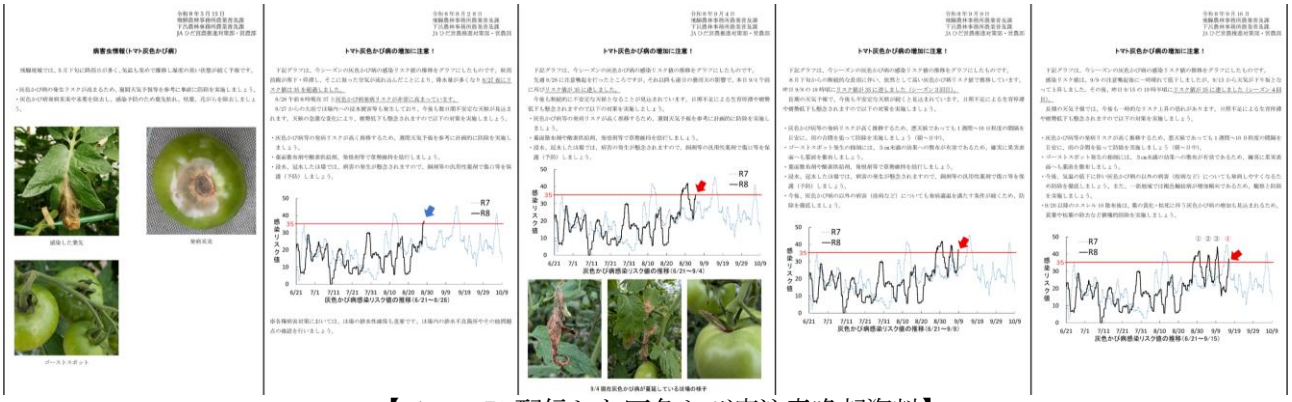
飛騨農林事務所の普及活動状況（令和８年９月末現在）

今月の重点活動

■トマト・秋の安定出荷に向けた灰色かび病注意喚起

飛騨農林事務所では、夏秋トマトの重要病害である灰色かび病の発生を抑制し、秋期の安定出荷につなげるため、環境モニタリング装置「あぐりログ」を活用した注意喚起を実施している。管内トマトハウスの温湿度データから算出した感染リスク値を監視し、独自に定めた基準値以上になると情報発信を行っている。８月下旬以降の長雨の影響でリスク値が上昇したため、８月28日から９月28日までに計５回、LINE（nimaruJA）で注意喚起を配信した。また、基準値未満でも長雨が予想される際には予防的な情報発信を行い、早期防除を呼びかけた。注意喚起では、適期の薬剤散布に加え、発病果実や花がらの除去など耕種的防除の徹底を指導し、生産者の防除意識向上と迅速な対応につなげ、灰色かび病の発生抑制を支援した。

農業普及課では、シーズン終了まで生産者が高品質なトマトを出荷できるよう、病害虫被害の注意喚起を継続し、トマト栽培を支援していく。



【nimaruJA 配信した灰色かび病注意喚起資料】

ぎふ農畜産物のブランド展開

■宿儺かぼちゃ・第22回宿儺かぼちゃ品評会を開催

飛騨地域のブランド野菜「宿儺かぼちゃ」が出荷最盛期を迎え、秋の食卓を彩っている。

９月２日、第22回宿儺かぼちゃ品評会が開催された。今年は梅雨明け後の猛暑から一転して、お盆以降は長雨に見舞われるなど、栽培には厳しい気象条件となったが、生産者の適切な栽培管理により、手間をかけて育てられた高品質な66点が出品された。



【品評会の審査風景と最優秀賞】

当日は行政、全農、ＪＡの関係者による厳正な審査が行われ、審査の結果、「宿儺かぼちゃの部」一般部門６名、ユニーク部門４名、字彫り部門３名、「宿儺のめぐみの部」一般部門５名が入賞した。

テレビや新聞などの各種メディアで多数取り上げられ「宿儺かぼちゃ」のさらなる認知度向上とブランド力の強化につながった。

農業普及課では、今後も研究会と連携しながら、省力化と高品質化を両立した栽培技術の確立を進め、宿儺かぼちゃの安定生産に向けた支援を行っていく。

■水稲・良食味米生産に向けたほ場巡回支援

飛騨地域で生産されたお米は非常に食味が良く、高い評価を受けており、食味コンクールにおいても全国トップクラスの成績を収めている。近年は、毎年のように気候が異なり、良食味米生産には厳しい年が続いている。今年は収穫時期に雨が続き、収穫の見極めが難しい年となった。

農業普及課では、そのような状況においても良食味米の生産ができるよう、市村等と連携し、刈取り適期判断のほ場巡回支援を行った。巡回では、気温データを利用して収穫適期が予測可能な「アグリルック」の活用や実際の登熟進行状況、今後の天候を考慮した収穫日について各生産者へ支援を行った。また、今年の生育状況等から来年に向けた栽培改善についても検討を行い、良食味米生産のための支援を行っていく。



【ほ場巡回支援の様子】

■りんご・高山市果実組合袋りんご目揃え会を開催

９月15日、高山市果実組合が袋りんご目揃え会を開催した。

今回は、組合員の方が持ち込んだ早生品種の熟度や着色について出席者全員で目揃えを行い、出荷基準の確認を行った。

ＪＡ全農岐阜からは、他産地の出荷状況・販売方針等の情勢報告に加え、市場への積極的な出荷について要望が出された。

農業普及課からは、今年の気象推移やりんごの生育状況について情報提供を行うとともに、例年飛騨地域で問題となっている、褐斑病や害虫の発生状況や防除について説明を行った。

今後も関係機関と連携しながら、栽培技術情報の提供や病害虫状況の把握、次年度に向けた病害虫防除暦の作成等を実施し、果樹の安定生産に向けて支援していく。



【目揃え会の様子】